

## 第4学年「音楽」学習指導案

授業者 町田 直樹

2月22日(木) 4階アセンブリ 10:00~10:40 話し合い 10:55~11:45

### 1 題材名 いろいろな音楽

### 2 題材について

本校では、4年生から、音楽の学習形態が大きく変化する。その一つが、自分(たち)で計画しながら学習していく活動の時間が保障されている、ということである。

アセンブリには、様々な楽器を始め、楽譜など、多数の素材が用意されている。この膨大な素材の中から、子どもたちは自分で選択し、活用していくことが求められている。教師の願いとして、4年生のうちには、とにかく音楽にどっぷりと浸る時間を大切にしてほしい。従って、触ってみる、音を出してみる、試してみる、組み合わせてみる、など、音楽と向き合える時間をたくさんとっている。そのような中で、子どもたちは考え、試行錯誤を重ねながら、取り組む姿が多く見られる。技術や知識の習得に偏らず、からだを通して音楽することを楽しんでほしい。その経験が、高学年での活動の広がりにつながると捉え、4年生での実践を進めている。

ソプラノリコーダーの学習では、4年生になり、新たに学習する音も増える。(3年生はソラシドレの左手の5音のみ) 身近にある楽曲を用いて、新しい音に触れることを大事にしている。と同時に、自分の「息」に意識が持てるような場の設定も工夫したいと考える。

自分(たち)の課題に向き合う時間では、実に様々な音楽が、教室空間を行き交っている。自分の音楽だけでなく、友だちの音楽も意識して活動しているようだ。マリンバに没頭する子や、ソプラノリコーダーをひたすら極めようとしている子、友だちの音楽を聴きながら一緒に参加している子、キーボードなどの電子音に興味を持ち、組み合わせて作品づくりをする子などなど、実にたくさんの音楽が存在する。それぞれの課題に向き合う活動の中で、お互いの音楽が交流し、賞賛や・批判を繰り返す。その過程から、子どもたちは、さらに考え、自分の音楽を更新していく姿も少なくないと捉えている。子どもたちには、自分のこだわりを持ちつつ、教室空間に溢れるいろいろな音楽を楽しんでほしいと願っている。そして、このような活動の繰り返しが、音楽することを自分の事として受け止め、ひろげ深めていく姿につながる素地になると考える。今後も子どもたちとともに、教師も楽しみ、成長していきたい。

### 3 学習指導計画(3学期:13時間目/全19時間)

【常時活動】 自分(たち)の課題に向き合う ・ ともに歌う/演奏する/聴きあう

【3学期提示した楽曲】 ※既習曲も適宜扱う

〈ソプラノリコーダー〉 いつも何度でも・カントリーロード・もののけ姫

〈歌唱曲〉 少年少女冒険隊(柚 梨太郎 作詞・作曲)

### 4 本時の学習について

#### (1) 本時のねらい

・自分(たち)の課題に向き合う。 ・自分の息や友だちの息を意識し、あわせることを楽しむ。

#### (2) 予想される本時の展開

主な学習活動と子どもの姿(順不同)	留意点
○自分(たち)の課題に取り組む ・これやってみよう ・一緒にやろう ・悩む ・試す	相談にのる・楽器の調整 子どもたちの営みを見守る
○みんなで聴きあう ・すごい ・もっとこうしたら? ・あれ、いいな! ・嫌	聴きあえる場 自分の考えが出せるように
○ともに歌う/演奏する/聴きあう ・息をつかう ・指がわからない ・一生懸命表現する	姿勢や表情を意識させる 子どもの様子を見る

### □授業後の話し合いで話題にしたいこと

子どもたちにとっての“音楽すること”とは。また、今後の音楽の授業のあり方について考えたい。